

平成26年度病害虫発生予察注意報第5号

平成26年12月1日
愛知県

作物名：イチゴ
病害虫名：ハダニ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

11月下旬の巡回調査では、イチゴにおけるハダニ類の寄生葉率は、15.4%（平年10.0%、前年19.9%）で、過去10年と比較して、多発した前年に続き2番目に高い。発生ほ場率も57.1%（平年50.0%、前年50.0%）で2番目に高い。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めたら、下表を参考に早期に防除を行う。
- (2) ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているの、薬液が葉裏にも十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。
- (4) 主要な化学合成農薬に対して感受性が低下した個体群が確認されているので、化学合成農薬の効果が低い場合には、気門封鎖型農薬も活用して防除する。
- (5) 農薬によってはミツバチ及び天敵への影響があるので、農薬の選定には注意する。
- (6) 天敵を放飼する場合は、下表により影響の少ない薬剤を選択して放飼前に徹底した防除をする。

表 イチゴのハダニ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 /使用回数	系統	天敵に対する影響					
				ミヤコカブリダニ			チリカブリダニ		
				卵	成	残	卵	成	残
アフーム乳剤	2000倍	前日/2回	A	×	×	-	×	×	-
コロマイト水和剤	2000倍	前日/2回	A	-	△	1	-	-	-
スターマイトフロアブル	2000倍	前日/2回	B	-	-	-	-	-	-
ダニサラバフロアブル	1000倍	前日/2回	B	-	◎	-	-	-	-
ニッソラン水和剤	2000～3000倍	前日/2回	C	-	◎	0	◎	◎	0
マイトコーネフロアブル	1000倍	前日/2回	C	◎	◎	0	◎	◎	0
カネマイトフロアブル	1000～1500倍	前日/1回	C	◎	◎	0	◎	◎	0
ダニトロンフロアブル	1000～2000倍	前日/1回	D	-	◎	-	-	-	-
バロックフロアブル	2000倍	前日/1回	E	×	◎	-	×	◎	-
サンクリスタル乳剤	300～600倍	前日/ー	F	-	○	0	○	○	-
粘着くん液剤	100倍	前日/ー	F	◎	-	*	◎	-	*
ムシラップ	500倍	前日/ー	F	-	-	-	-	-	-

注) 系統：A：マクロライド、B：ベータケトニトリル誘導体、C：その他、D：フェノキシピラゾール、E：オキサゾリン、F：気門封鎖型

天敵に対する影響は日本バイオリジカルコントロール協議会のウェブページ (<http://www.biocontrol.jp/index.html#天敵影響表>) から引用。

卵：卵に対する影響。成：成虫に対する影響。

残：その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数。

天敵に対する影響は◎：死亡率0～25%、○：25～50%、△：50～75%、×：75～100%、-：試験データなし

*：薬剤乾燥後に天敵を導入する場合には影響がないが、天敵が存在する場合には影響が出るおそれがある。

表中の影響の程度及び残効期間は目安であり、気象条件により変化する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471